

ドキュメントスキャナ

福田 宏

昨年4月に北里大学に転職した。引越しにあたって、研究室の面積が1/4になるということを知り、雑然と積みあがった、本やノートを前に呆然とした。色々考えて、1/4は破棄し、1/4は実家、1/4は自宅に置けば、残り1/4は新しい研究室に置けるはずだと思った。自宅や実家を片付け、配置に工夫をこらし、大変な思いをして、ようやく引越しが終わってみると、今まで1箇所にとまっていた本やノートが3箇所に散らばってしまい、やはり随分不便になってしまった。

しばらくして、手元にあったフラットヘッドスキャナ[1]で、重要でない書類はスキャンして棄てることを思いついた。書類は、白黒なら600dpiでスキャンしてあればコピー機と遜色ない品質で印刷できる。1枚1枚スキャナのガラス面に紙を置いてスキャンした。作業には時間がかかったが、自宅がすこしずつ広くなり、効果はテキメンだったので、このような作業を、何千枚分も続けた。こういう単調な作業をしていると心の平静を取り戻せるということもあり、ひょっとすると数千ではなく数万枚分も続けていたかも知れない。

そろそろ作業に飽きてきた頃、ドキュメントスキャナという製品を知った。これは、用紙をセットすると、スキャナがローラで自動的に紙送りをし、用紙の両面を同時にスキャンしてくれる。早速購入して[2]使ってみると、予想以上のスピードで綺麗にスキャンできる。ソフトウェアも使いやすくできていて、スキャンした年月日時分秒のファイル名を自動的につけてくれる。今度は、毎日、ドキュメントスキャナを使い続け、作業は半自動・高速なので、本以外の紙はほとんどスキャンしてしまった。本でも、ソフトウェアの解説書や公式集など、綴じてある必要の無いものは、裁断してスキャンした。こうして本として本棚にお

いてあったものも劇的に減った。

ドキュメントスキャナの効用は絶大である。A3用紙対応機種もそろえ[3]、受け取る資料は迷わずスキャンして破棄することに決めた。その結果、引越しで実家と自宅に運んだ本と書類は全て研究室に戻すことができ、その上、日々研究スペースは増えている。結局、大学時代のノートまで含めて、自分が書いたり目にしたもののほとんどが合計で10GB程度のファイルになってしまった。

今夏、海外に共同研究に出かけた。ノートパソコンにスキャンしたファイルを全て入れておいたおかげで、研究が随分はかどった気がする。例えば、自由に意見を出し合っていると、色々な事を思いつく。夜ホテルに帰って、あるいはその場で、自分のノートや論文を全て見ることができるのはとてもありがたい。思いつきを具体化したり、あるいは間違いを確認することができる。10年以上前に同じ事を考えていたなどという事もわかる。

このように、自分の関わった書類をすべてスキャンして持っていることの効用がとても大きいことと、そのための作業は案外楽で楽しいということを、研究室の面積が1/4になってしまった副作用として知った。これらの利用方法・効用は他にも色々あると思う。

ドキュメントスキャナを皆さんにもぜひお勧めしたい。以下に、性能に満足して便利に利用しているスキャナの一覧を掲載させて頂く。

[1] Canon CanoScan LiDE 600F (現700F), 約1.5万円。

[2] PFU ScanSnap S510 (現S1500), 約4万円。

[3] KOKUYO CaminacsW NS-CA2, 約7万円。

(基礎教育センター・情報科学)